（1） （明治25年3月28日第3種郵便物認可） THE JOMO SHIMBUN 平成2年（1990年）9月18日（火曜日） 第34345号 （日刊）

上毛新聞

発行所 （〒371） 前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話 前橋(0272)51－4341(代表)
夜間・休日電話
(編集)4343・4344
(広告・販売・事業)4392
(出版)4347
(制作)4345 (発送)4363

© 上毛新聞社 1990

東洋大、板倉町に

知事に正式決定を報告

「理工系の学部設置」

県と町 周辺整備へ全面支援

邑楽郡板倉町と県が誘致運動を展開していた東洋大（神作光一学長、本部・東京都文京区白山）は十七日、理事会を開き、新キャンパス建設候補地を板倉町にすることを正式に決定し、同日午後、塩川正十郎同大理事長らが県庁を訪れ、清水知事に報告した。席上、同大側が要望書を提出し、用地取得をはじめ東武日光線の新駅設置問題など周辺整備について協力を求めたのに対して、県、町はともに全面支援を約束。清水知事は「東洋大の誘致は前橋市の東京理科大と合わせて、地域振興の核と考えており、今後、具体的な進出条件の調整を図るとともに、支援、協力していきたい」と積極的な姿勢を示している。

清水知事に正式決定の要望書を手渡す塩川理事長

知事との会見後、記者会見した塩川理事長は、十数カ所に上る候補地から板倉町に正式決定したいきさつについて、同大の校地検討委員会が基本方針とした①本部キャンパスから六十～七十㌔圏内②本部から東北方面には既に川越、朝霞のキャンパスがあり、新キャンパスも同方面に③着工まで三、四年の準備期間を与えてもらえる―などの条件を満たしたことを挙げた。さらに「県の積極的なアプローチや町の熱心な誘致運動があった」と説明した。

新学部については「既存の工学部（学生約四千人）に基礎学問分野を設置し、将来的には理工学部としていく考えがある」と理工系の学部設置の考え方を明らかにした。また、具体的な建設は「財政面などから現在実施している本部キャンパスの新築が終了する平成七年以降となる」とし、その間を準備期間として、文部省などとも調整しながら、新キャンパスに置く学部を正式に決定していきたい方針という。また、新学部設置後は初年度ベースで二百五十～三百人の学生規模となる見込み。「県民に親しまれる大学として、群馬の子弟の推薦枠など今後、十分に検討していきたい」としている。

同大は近く「板倉校地対策委員会」を設置。県、町と協議しながら用地の選定、規模、取得方法などについての具体的な折衝を進めていくことにしている。この日の正式決定を受けて針ヶ谷板倉町長は「東洋大進出の決定を町を挙げて歓迎したい。新駅設置も含め、周辺整備に全力を挙げたい」と話している。

伊香保温泉湯元
横手館
電話〇二七九－七二－三二四四（大代表）

主なニュース

安倍元幹事長が再入院（2面）
痴ほうの妻と離婚認める（3面）
ソ連とサウジが国交樹立（4面）
太田の2人、中東医療に（16面）

桐生川を流域別に開発

市民活用へ将来構想 4ゾーン、特徴生かす

[illegible]生市を南北に縦断する桐[illegible]の自然景観と歴史を生か[illegible]同川を下流、中流、上流、[illegible]の四つのゾーンに分け、[illegible]それの流域の特徴に応じ[illegible]谷を巡る遊歩道や、景観[illegible]しめる眺望広場、水辺レストラン、河川プールなど同川の将来整備構想が十七日まとまった。市の桐生川整備構想策定委員会（委員長・小葉竹重機群大工学部助教授）が、二年がかりで策定したもので、市では「二十一世紀にかけての整備構想であり、この構想に基づいて具体的な整備を進めていく」としている。

同川は栃木県境の根本山を源流として渡良瀬川の合流までをたどる延長四十八㌔の一級河川で、このうち三十八㌔が同市内を流れる。市街地を流れる川として古くから市民に親しまれ、同市の将来展望には同川の整備が欠かせないことから整備構想策定委員会が、市民から寄せられた二百六十八件の意見を集約し「豊かな自然に恵まれた川」「楽しい川」「住民交流の場」「きれいな川」をキーワードとして検討してきた。

整備構想の柱は流域や川の特性から下流、中流、上流、源流の四ゾーンに分けたことで、それぞれのゾーンには核となる拠点施設を取り入れている。下流部（渡良瀬川合流部―八板橋）は歴史的な水辺の再生と景観を主眼に、川沿いには同川の生態系資料を展示する河川博物館や、水辺レストラン、眺望広場などを、中流部（八板橋―観音橋）は川の流れを生かした河川プール、河川公園のほか群大工学部グラウンド近くには自然レクリエーション公園など市民生活に溶け込んだ整備を打ち出している。

また、上流部（観音橋―桐生川ダム）は、両岸に山が迫り、豊かな山間風景が保たれていることから、その景観を生かし「ホタルの里」「カジカの里」「ふるさと体験村」を拠点施設に挙げ、源流部（桐生川ダム上流）は、梅田湖周辺に林間学校やキャンプ場の野外活動センター、源流部特有の景観を残す渓谷を巡る遊歩道などを整備することにしている。

佐鳥社長にブラジルの勲章

友好親善で功績

ブラジルと日本の文化交

日伯両国民の友好親善関促進に功績があった―として十七日、佐鳥俊一上毛新聞社長にブラジルの最高位の勲章であるグラン・クルース勲章が贈られた。この勲章は八にサンパウロ・群馬州県姉提携十周年を記念して同国訪問した知事代理の梅沢祐一郎県県民生活部長ら県親善交流使節団に託されたもので、この日、梅沢部長が上毛新聞社を訪れて勲記、略章などとともに佐鳥社長に伝達した。

グラン・クルース勲章は、ブラジルにおいて各分野で多大な功績のあった者に贈られる最高位の勲章。ブラジル連邦共和国外務長官名の勲記には「ブラジルと日本の文化交流を促進し、日伯両国民の友好親善関係を強化促進された」と記されている。今夏のブラジル訪問で、使節団一行は県民から寄せられた在ブラジル「精神障害者社会復帰センター・やすらぎホーム」の運営基金約二千二百万円をサンパウロ市の日伯援護協会事務局に手渡したが、佐鳥社長は上毛新聞紙面に、この募金活動を積極的に支援する記事を掲載するなど協力した。

梅沢県民生活部長（右）からブラジルのグラン・クルース勲章を伝達される佐鳥俊一上毛新聞社長

訪ソ団長代行に小渕氏

小渕恵三元官房長官が、二十日に出発する訪ソ国会議員団の団長代行に十七日決定した。団長の安倍元自民党幹事長が健康上の理由から同日、訪ソを断念したため。

議員団は自民党五十二人、税金党二人の計五十四人。二十二日からモスクワで開かれる「日本文化週間」に出席するほか、ソ連首脳らと会談する見通しで、二十六日帰国する予定。（関連記事 2面）

高校生の通学費を補助

南牧村

甘楽郡南牧村は、過疎対策の一環として村内の高校生の通学費の一部を補助していくことになり、その費用二百四十七万円を本年度一般会計補正予算案に盛り込み、十七日開会した同村議会九月定例会に上程した。

高校生のほとんどがバス通学する同村では、その通学費の負担が年々家計を圧迫している。隣の下仁田町までバスで通う場合、三カ月分の定期代が四万三千円かかる地区もあり、こうした負担の重さが過疎化に拍車をかけているといわれる。

今回の通学費補助は、こうした負担を少しでも軽減し過疎化に歯止めをかけるのがねらい。

補助対象には、村外での下宿生や定時制通学者も含まれている。補助額は年間、最寄りのバス停留所から下仁田町までの三カ月分の定期代の一五%。

通学費補助を盛り込んだ補正予算案は、同日開かれた総務常任委員会でもおおむね了承を得ており、十九日の本会議で原案通り可決、成立する見込みだ。

山春秋

「若い人たちの中には『秋分の日』の意味すら知らない者がいるようだけれど、こんなすばらしい人もいます」―秋の〝お彼岸ウイーク〟を前に、渋川市の元会社役員Sさんが、亡き息子への友情物語を聞かせてくれた▼Sさんは三年前の夏、二男を不慮の死で失った。二十八歳だった。あの日から毎週、月曜日の夕方になるとSさん宅を訪問、霊前に語りかける二男の友人がいた。亡くなった日が月曜日だったのだ▼二人は中学の級友で、高校も社会も別々の道を選んだが、ずっと励まし合ってきた。そして、一方の突然の死。それ以来、友人の〝月曜慰霊訪問〟が始まった。一カ月、二カ月、三カ月…。Sさんとその家族にとって、どんなに心の痛みをいやされたことだろうか▼月曜日が夜勤のときは、その翌日の勤め帰りに必ず姿を見せ、一年間、一度の休みもなく続いた。「長い間、友情をありがとう。体に注意して息子の分まで生きてほしい」―一年忌の日、Sさんはそう言って感謝の心を伝えた。友人はその後も命日、お盆、彼岸など、折にふれての墓参を欠かさない▼友人の名前を明かそう。勢多郡北橘村八崎の看護士・狩野雄一さん（三）がその人。狩野さんは来月、結婚式を挙げることになった。招待状をもらったSさんは「息子の写真と一緒に出席して、狩野君の優しさをスピーチで紹介したい」と、その日を心待ちにしている▼祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ『秋分の日』が中日となる秋彼岸の入りは二十日。たとえ短くとも、お世話になった人々をしのぶ時間を、今から心がけたい。『去る者、日日に疎し』では、心が貧し過ぎる。

町制移行を決議

吉岡

北群馬郡吉岡村議会は、九月定例会初日の十七日、原沢富二夫村長から提案された町制移行をめぐる議案を全会一致で可決した。同村では近く清水知事に申請、県議会の議決、知事告示、自治大臣告示を受け、来年四月一日から町制を敷きたい考え。

県内七十市町村のうち、町は現在三十一、村が二十八。最近では新田郡笠懸町が四月から移行しており、吉岡町が誕生すれば三十二番目の町となる。

吉岡村の人口は今月一日現在で一万三千三百七十三人。県が地方自治法に基づいて制定している条例の移行条件を備えていることから、村では前橋市のベッドタウン化や交通網整備などの現状を踏まえ、町制でイメージアップを図る方針を決定。今春から行政区単位の座談会を開き、村民合意を取り付けていた。

県議会開会

「県単事業を追加計上」

小寺副知事、小関教育委員を可決

九月定例県議会が十七日、開会した。清水知事は総額百四十八億六千五百九十万円の一般会計補正予算案など三十九議案を上程。提案説明で「深刻な労働力不足や中東情勢の緊迫化など経済の不安定要因の中で、県税収入の年度後半の伸び悩みが懸念されるが、県政の緊急課題に対処し、県民の要望の強い単独公共事業の追加計上により社会資本の充実に努めたい」と強調した。

今月末で任期満了となる小寺弘之副知事（四九）の再任と、県教育委員会委員に元群銀頭取の小関博氏（七〇）を新たに選任する人事案件は即決の結果、ともに自民、社会、公明などの賛成多数（共産は反対）で可決された。

小寺氏は東大法学部卒。自治省大臣官房企画室主査などを経て昭和四十三年に県医務課長に就任。財政、秘書課長、総務部長を歴任し五十七年、副知事となった。六十一年に再任されており、本県の副知事としては初めて三期目に入ることになる。

小関氏は東京商科大卒。日銀前橋支店長などを経て四十四年に群銀入り。五十二年から五十九年まで頭取を務めた。現在、同行相談役。

また、本会議の冒頭、今年六月に死去した元県議会議長（六期）の荒牧栄吉議員の追悼が行われ、夫人の栄子さん（六五）ら遺族が傍聴席で見守るなか、久保田富一郎氏が県議を代表し「郷土発展に情熱を注いだ先輩の志を継いでいきたい」と哀悼の辞を述べた。

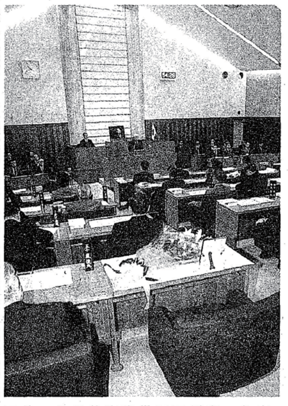
小寺副知事

小関教育委員

21日から一般質問

同定例会は二十一日本会議を再開し、二十五、二十六日の三日間にわたり、一般質問が行われる。質問者は二十一日が浜名敏白氏（自民）境野貞夫氏（社会）庭山昌氏（公明）中島光一氏（共産）、二十五日は清水聖義氏（自民）高木政夫氏（同）中島勝敬氏（同）飯塚喜久義氏（同）、二十六日が阿部一郎氏（同）永井良一氏（社会）原富夫氏（自民）矢口昇氏（同）の計十二人。

補正予算は、来春の県議選を控えた県議会サイドの単独公共事業などに対する予算要求が高まったこともあり、平常ベースでは過去最大規模。当初予算を加えた一般会計予算額は初の六千億円台を突破している。さらに、土地価格の高騰、大店法の規制緩和による中小小売業者への影響、産業廃棄物問題、ゴルフ場の農薬対策、看護婦不足や高齢化社会への対応、輸入自由化に揺れる農業対策、生徒数急減対策―など、産業、環境、福祉、教育など各分野での緊急課題が山積しており、一般質問をはじめ各常任委、特別委での県政方針をめぐっての活発な論議が期待されている。



開会した九月定例県議会。亡き荒牧栄吉氏の議席に置かれた花束

アングル県議会

この日ばかりは〝借りてきた猫〟

県議会九月定例会初日の本会議場―。いつも通り颯爽（さっそう）と議場に姿を現した県議の面々だったが、いや、何やら様子がおかしい。傍聴席にチラリと目をやるや、放談、雑談、密談いっさいなしに足早に自席へ。雄弁で知られる県議も〝首の運動〟が癖の県議も、この日ばかりは真っすぐ前を向き、資料をめくったり、ペンを走らせたりと、さながら学校の授業風景。

それというのも、この日は四年に一度の「県議夫人傍聴」。傍聴席には四十三人の夫人が席をとり、夫の一挙手一投足に目を凝らしていたからだ。一般質問で登壇する県議が後援会の人たちを前に顔を紅潮させ、同僚に冷やかされる場面はよく目にする。が、この日は、大半の県議が同様の雰囲気。

開会のあいさつで、松沢睦議長が「きょうは議場も和やかな雰囲気に包まれ、温かいまなざしが諸兄に注がれています」とやったが、笑いが起こったのも一瞬。県議各位は、また、熱心、熱心…。

わずか三十分の出来事ではあったが、各県議は「アガるね」「テレるよ」を連発。多くの県議は、日ごろ威風堂々、豪放磊（らい）落の印象をふりまくが、その精力的な仕事も、内助の功があればこそ。片や、夫の〝雄姿〟を目の当たりにした夫人らは、ホッとした面持ちで議事堂、県庁、議会会館、生涯学習センターと、見学に飛び回っていた。

群馬発展へ心新た

県議会の選任同意を受けた小寺副知事は「再任は非常に光栄なこと。一期、一期が任期であり、心を新たにし、清水知事の補佐役に徹しながら、二十一世紀に向けての群馬発展の基盤づくりに尽力したい」と語った。

初秋のフランス料理をお楽しみ下さい。
● スペシャルディナー……¥6,000
● フルコースディナー……¥8,000
フランス料理 オーロラ 本館7F
ただ今、ご婚礼ご予約受付中です。
マーキュリーホテル
前橋市大友町3-24-1 ☎0272(52)0111

高利回り、100万円から。
サイギンスーパーMMC
埼玉銀行 高崎支店 前橋支店 太田支店

ワニの本
まんがで読む 食べるだけで やせる健康食
「娘が買ってきたこの本を、いっしょに読んだら わかりやすく、効果があって大成功!!」
2度と太らない 中村式減量法
さぁ大変！食欲の秋!!
日本肥満予防協会会長 中村鉱一（原作） みずの圭（まんが） 本間正夫（構成）
●最新刊 定価800円（〒260円）
●今は、独身時代の洋服が着られ、足のうらまでツルツルになりました。
寺島美千代さん（山形・35才・家事手伝い）157cm59→48kg
●たんすの中で眠っていた背広が着られうれしい。子供も皆に「やせたね」と言われ喜んでいる。
伊藤義樹さん（静岡・38才・公務員・172cm82→65kg）
菜奈さん（静岡・10才・小学生・139cm39→35kg）
楽しくやせる健康食 やせて背がのびる 定価690円（〒260円） 定価720円（〒210円）
本書についてのご質問・ご相談は下記へ
▶前橋0272 清王寺薬局日吉町本店 33－8915
▶渋川0279 渋川健康食品センター 23－9049
▶中村研究室 0272－32－1025
※手紙には返信料（切手可）を同封してください
定価はすべて税込みです。
※品切れの節は直接KKベストセラーズへ
KKベストセラーズ
〒160 東京都新宿区大京町22 TEL(03)353-9121

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。